



STAM投資ゼミナール



第3回 リバランスの効果

～ 長期分散投資には定期的なリバランスが効果的 ～

ポートフォリオを定期的にリバランスすることで運用効率の改善が期待できます。

資産運用では、リスクを分散するために複数の運用商品に資産を配分することが重要です。資産運用の目的やリスク許容度に応じて、資産配分した後は、時間の経過とともにマーケットが変動するなかで、資産構成比率の変化を定期的にチェックし、必要に応じてバランスを調整し直す「リバランス」を行っていく必要があります。

複数の資産を組み合わせる分散投資では、ある資産が値上がりする一方、別の資産が値下がりするなど各資産のパフォーマンスが異なるため、時間の経過とともに各資産の配分比率は当初定めたものからの乖離が生じます。乖離した資産配分をそのままにしておくと、必要以上にリスクを抱えてしまったり期待できる収益が小さくなってしまう可能性があります。

リバランスによりポートフォリオの資産配分をキープすることで、リスクを低減するようにコントロールすることが可能になります。また、リバランスを通じて、相対的に割高になった資産を売って、相対的に割安になった資産を買うといった投資行動を実践することができます。

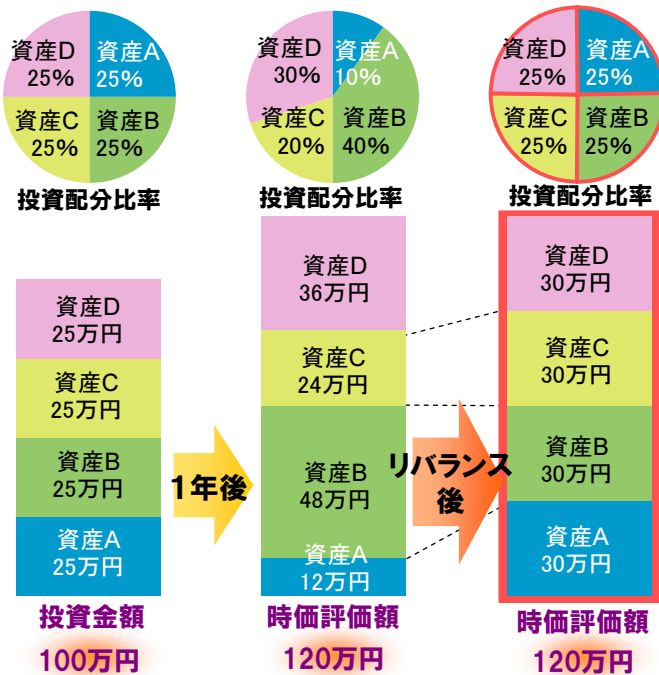
リバランスには、大きく分けて当初定めた配分比率から一定の割合以上に乖離したら行う方法と、一定期間が経過したら行う方法があります。注意すべき点としては、リバランスをするために資産の売買をする場合には手数料や税金などのコストがかかりますので、あまり頻繁に行くと運用効率を低下させることとなります。

足元、世界的に金融市場が不安定な状況が続くなか、急変動で特定の資産が大きな乖離を見せた際には、リバランスを行うことは資産運用を行う上でひとつの効果的な手段と考えられます。

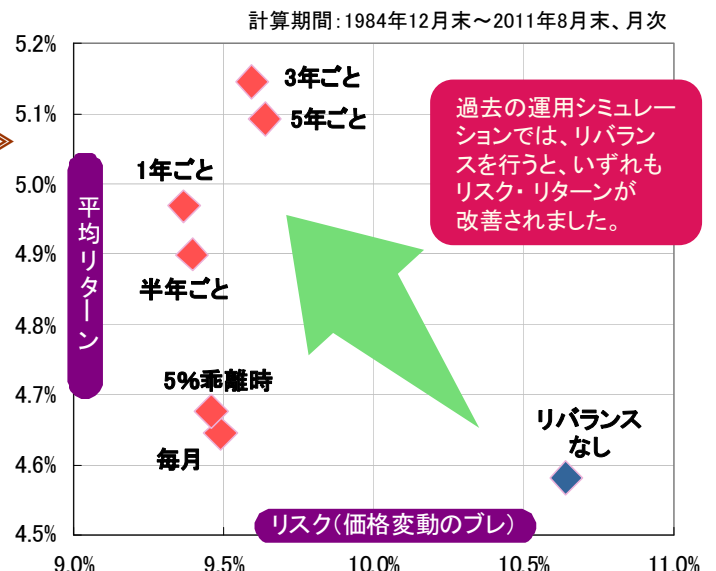
リバランスの考え方

計画的な配分比率で構成されたポートフォリオによる運用を行う場合に、相場環境の変動などにより変化してしまった投資配分比率を元の配分比率に調整することをいいます。

＜4資産を組入れたポートフォリオを1年後にリバランスするケース＞



リバランスの有効性



※上記は国内株式、国内債券、外国株式、外国債券の4資産に均等投資したポートフォリオを5つの異なる期間(毎月、半年、1年、3年、5年)ごと、および投資配分比率より上下5%以上乖離した際にリバランスを行った場合の計算期間の平均リターン、リスク(標準偏差)を年率換算したものです。国内株式: 東証株価指数(TOPIX)配当込み、国内債券: NOMURA-BPI総合、外国株式: MSCI コクサイ・インデックス(除く日本、配当込み) *、外国債券: シティグループ世界国債インデックス(除く日本) * 米国ドルベースのデータを当該日の為替データをもとに住信アセットマネジメントが円換算。その他は円建て。
 ※取引手数料や信託報酬等運用にかかるコストや税金等は考慮していません。(出所) Bloombergデータをもとに住信アセットマネジメント作成
 ※上記は過去のデータをもとに作成したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【 ご注意事項 】

- 本資料は住信アセットマネジメントが作成した投資判断の参考となる情報提供を目的とした資料であり、金融商品取引法にもとづく開示書類ではありません。購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)および契約締結前交付書面の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預金等や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 本資料中の図表やデータ等いかなる内容も本資料作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。将来の運用成果を示唆あるいは保証したり、その正確性、完全性を保証するものでもありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数開発元もしくは公表元に帰属します。

◆設定・運用は



住信アセットマネジメント

商 号 住信アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会 (社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会